

『アヴァダーナ・シャタカ』に見られる

説話の形式について

出本充代

仏教説話の一種としての「アヴァダーナ」は、本来「仏弟子や信者などブッダ以外の者を主人公とした、過去と現在を結ぶ因果応報物語」を意味すると考えられているが、三―四世紀以後大量のアヴァダーナ文献が作成されるなかで語意が拡大し、多様な形式の説話を包摂するようになる。

① 数種の単純な形式の説話百篇からなる「アヴァダーナ・シャタカ」は、各十篇を一章とする全十章にわかれ、章毎に説話の形式が異なる。各章の内容はおおよそ以下のとおりである。

第Ⅰ章 正等覚者になる予言

第Ⅱ章 釈迦仏の前身「における予言」^②

第Ⅲ章 辟支仏になる予言

第Ⅳ章 釈迦仏の前身（ジャータカ）

第Ⅴ章 餓鬼への転生

第Ⅵ章 畜生・三十三天への転生

第Ⅶ章 釈迦族の阿羅漢の前身

第Ⅷ章 女性の阿羅漢の前身

第Ⅸ章 善行の果を受けている阿羅漢の前身

第Ⅹ章 悪行の果を受けている阿羅漢の前身

狭義の「アヴァダーナ」に該当するのは後半の第Ⅶ―Ⅹ章のみで、ほかに未来の成仏を予言する話、釈迦仏が主人公の話、餓鬼・畜

生・三十三天に転生する話を収め、当時までに以上のような形式の説話が「アヴァダーナ」として認められていたことがわかる。

このうち、もともと独立したジャンルを形成していた「ジャータカ」を扱う第Ⅳ章だけは既存のジャータカ説話の語り直しを多く含むが、それ以外は主として編者の創作によると思われる。

全十章の説話に共通しているのは、過去・現在・未来にわたる因果応報の法則を譬喩的に示す教訓説話であること、および、その因果の連結を述べるのは常に釈迦仏であることである。後者についていえば、未来を見通し、他人の過去を振り返る能力があるのは全知者ブッダだけであるから当然の設定とも思えるが、餓鬼・天・阿羅漢には自分の過去が見えるので、ブッダの力を借りなくても自ら過去を語って因果の結合をなすことができる。例えば、「アヴァダーナ・シャタカ」の第Ⅴ―Ⅹ章に相当するパーリ聖典の *Petravāḥu*、*Vimānaravāḥu* および *Apāḍana* は主人公の自説を中心とし、仏滅後の話とある。これに対し「アヴァダーナ・シャタカ」では意図的に釈迦仏が解説をする構成にし、仏説としての性格を強めている。

各形式を特徴づける要素には、善因楽果と悪因苦果およびその因果作用の時間（過去・現在・未来）、主人公の属性などがあるが、最も重要なのは果報の種類である。「アヴァダーナ・シャタカ」に描かれる果報には、楽果としてはブッダ・阿羅漢・幸福な人間・天への転生、苦果としては不幸な人間・畜生・餓鬼への転生があり、このいずれかを選ぶことで話の展開の型は決まる（ただし、人間と畜生の境涯は結束としてよりも過渡的な状態であることが多い）。

これらの果報の原因となる具体的な行為、教訓の実例としての

行為を善悪にわけて整理すると、悪行はおおむね種類毎に特定の苦果と結合する(吝嗇↓貧乏・墮餓鬼、破戒↓墮畜生、惡罵↓言葉の内容が発言者の身にふりかかると)が、善行はあまり変化がない。出家修行の経験が阿羅漢果につながる場合は、どんな樂果に對しても一様にブツダへの淨信(prasāda)とその表れとしての供養が善因となり、供養の種類や量は問題にならない。果報の種類を決定するのは、むしろその善行をもとにした誓願(prañidhāna, prañidhi)である。同じ供養をしても誓願をとまなわない場合は、三十三天か恵まれた人間に転生する。しかし、それ以外の果報を指定したい場合——世俗な願いもあるが、多くはブツダになることや良い指導者に出会うこと——は、誓願をもちいる。つまり、誓願しただいで、ある善行はどんな果報をももたらす。

従つて、ひとつの善行を複数の形式の説話の材料として繰り返して使用することが可能である。例えば、『アヴァダーナ・シャタカ』第二八話(漢訳の第二七話)では、香を釈迦仏の足に塗る供養をした女性が辟支仏になる予言を受ける(第三章程型)が、『雜寶藏經』第六六話では同様の行為によつて三十三天に転生する(第六章程型)。また、『アヴァダーナ・シャタカ』第七二話の過去物語に登場する下女は、主人に届ける料理をブツダに布施することとで、美德をそなえた人間の子供に再生する(第七章程型)が、『雜寶藏經』第六九話では三十三天に転生する(第六章程型)。

このように、『アヴァダーナ・シャタカ』とその周辺の説話は、果報を中心とした因果応報の型に、善行・悪行という材料をはめ込むことによつて量産される。

以上、アヴァダーナ文献の發達の過程を説明する手掛かりのひ

とつとして、『アヴァダーナ・シャタカ』を説話の形式面から概観した。

註

- ① 梵本: *Avalanayataka, a century of edifying tales belonging to the Hinayana*, ed. by J.S. SPEYER
 藏訳: *Gai-po la-sogs-pa'i rtags-pa by jod-pa by gyu-pa*
 (『影印北京版西藏大藏經』第四〇卷)
- ② 漢訳: 『撰集百緣經』(『大正新脩大藏經』第四卷)
 第二章が単なるジャータカではなく菩薩への予言の話であったことは、現行梵本より『アヴァダーナ・シャタカ』の原典に近い漢訳から知られる。
- ③ 梵本・藏訳の第百話は、舞台が仏滅後となりウバグプタ長老が釈迦仏の代役を勤めているが、これは後代の改変である。